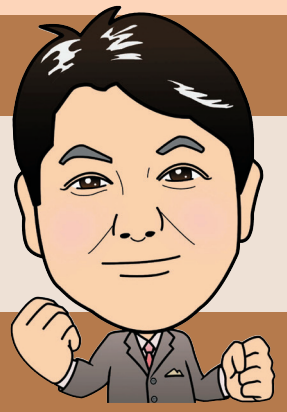


TOMITA SUPPORTERS ASSOCIATION / NEWS LETTER

REALIZE



富田後援会 REALIZE

ニュースレター



VOL.32 / 2021

秋号



五味後援会長始め後援会員の皆さんとは、長引くコロナ禍の下、「新型コロナウイルス感染症拡大防止」遵守のため、直接お会い出来ない事に、とても残念な思いと、その一方で、この状況をご理解頂いております事に感謝申し上げます。

皆さん、お元気ですか。日々の生活に、とても大きな悪影響が出て、一年半以上の我慢、加えて、仕事、生活を営むにも、心労も重なっている事をお見舞い申し上げます。

さて、昨年末の会報以来となつてしまいました。が、あの会報では、町長就任から今に至る間の、色々な取り組みを皆さんに感謝の思いを込めて、報告させて頂きました。

今回は、政治とは、を自分なりに理解する事が出来た貴重な経験を、ある一つの事業を通してお伝えさせて頂きます。

「騙された県が悪いのか、それとも、騙された私が馬鹿なのか！」

こう言い放つて私が席を立ったのは、つい先日

8月20日、開校に至った「神奈川県立小田原養護学校湯河原校舎」の事業について、時の神奈川県副知事に直談判した平成26年の面談時のことです。

皆さんは名称から、神奈川県の施設であり、県の事業では？と思うられるかと思いますが、正にその通りです。

では何故なんだ？と、その辺が上手くお伝え出来れば幸いなのですが。特に、旧湯河原高校跡地と養護学校建設をめぐる神奈川県と湯河原町との折衝、生まれ変わる旧湯河原中学校跡地、そして、その時々の私の心境にも注目しながら、お読みいただければと思います。

実は、この養護学校開校までには10年越しの歳月を費やしたのですが、その時間こそが私に色んな経験をさせてくれたのです。

初の町長就任後、ご家族に障がいをお持ちの方がいる方々とお話しをする機会を頂きました。会議とか、意見交換とかの場では無かったのですが、その時が、障がいをお持ちの方がいるご家族の日常生活の一部を教えて頂く事の始まりでした。

その中の一つに、小田原市内の養護学校に日々通学するご苦労があることを知りました。その後、同様な環境のご家族からも、同じご苦労があるお話を伺いました。「養護学校が湯河原にあれば」という思いが強くなりました。

そして平成20年、湯河原高校が閉校となる事から、旧湯河原高校校舎と跡地を湯河原町に活用出来ないか、との申し出が県から有りました。

当時、旧湯河原中学校校舎の耐震化が課題に上がっており、吉浜小学校の耐震化が終了して、次は中学校、という流れが町側にもありました。

そして、本格的な県との話し合いが始まり、まず平成21年度から3年間、県から高校校舎を町が借りて中学校運営を

始め、その後町が買い取る、ということが大筋の合意内容でした。その中で、「養護学校を湯河原に作る」ことを一つの条件としてお願いし、基本的合意に至りました。

湯河原高校校舎は、新しい建築基準法での建物のため、耐震性には問題が無く、旧湯河原中学校校舎は解体する事が耐震対策となる事から、平成22年1月、町は解体工事を始め、同年8月の解体後の半年余りのちに3・11東日本大震災が起きたのです。

海の近くの町立中学校運営、この事には厳しいご意見を頂戴しながら、今すぐ何が出来るかを考え、その答えは、ハード面は屋上への避難路の整備、ソフト面は児童・教職員の屋上への避難訓練の実施等と対策を決め、実行し、避難訓練は現在も継続して頂いております。

その後、平成24年12月の町議会の議決を経て、平成25年4月町は湯河原高校跡地を正式に購入した事から、養護学校の事業化が本格化すると思つた矢先、神奈川県は「この計画を見直す」旨を伝えて来ました。

流石にこの時の、やり場のない怒りは、今も私は鮮明に覚えております。

暫く時をおき、時の神奈川県副知事に直談判し、決して綺麗な言葉では無かったですが、短く、政治家としての覚悟を持った、前述の「**騙された県が悪いのか、それとも、騙された私が馬鹿なのか！**」につながるのです。

時は流れ平成27年、養護学校の話が再び神奈川県側から提案され、湯河原町の土地を無償貸借として、養護学校校舎を神奈川県が作る役割分担にて、ようやく正式な事業化となりました。

少し歴史を遡りますと、今から60年ほど前、新生中学校の建設のため、約一万坪の土地が必要となりました。その際、町、議会はもとより、当時の旧吉浜鍛冶屋地区の方々の献身的な協力があり、中学校建設予定地がまとまったとお聞きした事があります。これが正に、昭和の大合併の三大事業の一つであります。(因みに、後の二つは、役場

の第一庁舎の建設と今回解体した観光会館建設です。)

現在、その旧湯河原中学校跡地には、防災コミュニティセンター、町民専用の体育館、病院、たんぼ作業所、そして養護学校が収まる形で、多年の努力が結実しました。

昭和の大合併にて誕生した旧湯河原中学校は、皆さんのご理解のもと、福祉と防災の拠点として生まれ変わりました、とようやくお伝え出来る日が来たのです。

決して、自己肯定として申し上げる訳ではありませんが、今まさに、新型コロナウイルス感染症が急拡大する中、隣地にJCHO湯河原病院があるという安心の環境下の旧湯河原中学校跡地の町民体育館に、ワクチン集団接種会場を設置することが出来ました。そして、皆さんが積極的に接種を受けて頂いております事は、何よりも皆さん方のご協力の賜物に他ならないと思っております。

このような、私の政治経験を皆さんにお伝え出来る事は、色々ありましたが、とても貴重な経験だったと深く想うのです。

そして、私が判断に苦しんだり、悩んだりしていたこの間も、皆さんの後押しがあった事は、間違いのない事実です。

同時に、以前より申しております様に、やはり、判断をする事が政治家としての役目、責任なのだと、もう一度、自分自身で考える機会となりました。

拙い文章で上手く伝える事が出来たか分かりませんが、この事は間違いなく、私に、政治とはを教えてくれた経験です。

結びに、既にご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、長年、後援会長として、会を引っ張って下さいました、前会長高橋義雄さんが、本年3月12日にお亡くなりになりました。改めて、皆様と一緒にご冥福をお祈りし、今回のご報告とご挨拶と致します。

今後とも、更なるご指導と、ご協力をお願い申し上げます。

湯河原町長 富田 幸宏

令和三年三月十二日、富田後援会顧問高橋義雄さんがご逝去されました。

高橋義雄さんは生前長年にわたり、富田町長を支え、富田後援会活動にご尽力いただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。



平成19年4月
「町長選挙 初当選」



平成28年8月
「納涼親睦会」



平成31年4月
「町長選挙」



平成27年4月
「町長選挙」



平成30年10月
「ふれあいの集い」



平成31年 5月
「初登庁」



残暑厳しい折、昨年と同様に熱中症に加え、新型コロナウイルス感染症からも身を守らねばならず、後援会員の皆様におかれましても、以前と違う日常に大変ご苦労なさっていることと拝察いたします。

平素は後援会活動に對しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

近年は、日本各地で過去に経験したことのない規模での自然災害が発生しています。今年7月に、すぐ隣の熱海市伊豆山で梅雨前線による豪雨により、凄まじい土石流災害が発生しました。26名が亡くなり、依然1名が行方不明(8月30日時点)、多数の家屋が流され、避難者は330人を超えるなど、被害は甚大でした。この豪雨は、湯河原町にも崖崩れ6か所、千歳川沿い道路直下の地盤崩れ、河川護岸の崩落、出水被害、県道の一部通行止め等の被害をもたらし、昨年8月の会報で「令和2年7月豪雨」で鹿児島・熊本・岐阜・長野・山形などが被害を受けた際、同じことがいつ湯河原で起きても不思議ないと申しましたが、現実となり、本当に残念です。異常気象による災害は必ず起きるものとして、自宅や所有店舗の立地にどういったリスクがあるのか、避難場所はどこなのか、ハザードマップなどで把握し、しっかりと非常時に備えておきたいものです。

改めて、この豪雨被害によりお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災した皆さまの心身の傷が少しでも早く癒えますよう心からお祈り申し上げます。

さて、今夏は東京2020五輪が開催され、日本代表の大活躍や、世界のアスリート達が躍動する姿に、皆さんも心を打たれた場面が沢山あったのではないのでしょうか。私も幾度となく涙してしまいました。

一方、後援会の夏のイベント「納涼親睦会」は、緊急事態宣言下、新たなデルタ株で新型コロナウイルス感染が急拡大している現状から、中止とさせて頂きました。2年連続の中止は、富田町長はじめ、我々スタッフも極めて残念な思いですが、皆様にはご理解いただきたく存じます。

今後の後援会活動ですが、秋の「町長とのふれあいの集い」の開催についても、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながらの判断となりますが、現在町が懸命に進めているワクチン接種の状況との兼ね合いも考慮し、結論を出したいと考えております。

最後に、新型コロナウイルス感染症と熱中症、さらには線状降水帯の発生など、身を守るための心身への負担が大きくなるうことかと思えます。後援会員の皆様、くれぐれもご自愛をお祈りいたします。

富田後援会長 五味康隆